

令和3年第5回水俣市教育委員会定例会会議録

開催日	令和3年5月27日(木)		
場所	水俣市公民館分館 3階子ども自立支援室		
会議種類	定例会		
出席委員	平尾 雅述	委員	
	堀 浄信	委員	
	山田 誠次	委員	
	本田 恵津子	委員	
教育長	小島 泰治		
欠席委員	無		
事務局出席者	坂本 禎一	教育次長	
	赤司 和弘	教育総務課長	
	梅下 彰	生涯学習課長	
	福山 達郎	教育総務課指導主事	
	田上 朋史	教育総務課総務係長	
	白坂 優季	教育総務課総務係参事	
署名者	平尾 雅述	委員	
	堀 浄信	委員	
	山田 誠次	委員	
	本田 恵津子	委員	
	小島 泰治	教育長	
傍聴者	無		
開会宣言	午後1時30分		
<p>1 非公開とする審議事項</p> <p>1) 議第2号、議第3号、議第4号及び協議第2号を非公開とすることに 教育総務課          ついて</p> <p>2 報告</p> <p>1) 教育長報告</p> <p>2) 各課報告</p> <p>① 第37回定期演奏会に係る後援承認について 生涯学習課</p> <p>3 議事</p> <p>1) 審議事項</p> <p>① 水俣市通学路等安全推進会議設置要綱の一部を改正する要綱の制定 教育総務課          について</p> <p>② 水俣市奨学生選考委員会委員の委嘱について 教育総務課</p> <p>③ 水俣市社会教育委員の委嘱について 生涯学習課</p> <p>④ 水俣市地域学校協働活動推進員の委嘱について 生涯学習課</p>			

2) 協議事項	
① 令和3年6月の教育委員会定例会の開催日程について	教育総務課
② 学校教育活動の現状について	教育総務課
4 その他	
1) 6月の行事予定について	教育総務課
2) 教育委員会事務局の事務分掌について	教育総務課 生涯学習課
<b>1 非公開とする審議事項</b>	

<b>【案件】</b>	議第2号、議第3号、議第4号及び協議第2号を非公開とすることについて
<b>【説明】</b> 赤司 和弘 教育総務課長	個人情報等を含むため、議第2号、議第3号、議第4号及び協議第2号は非公開を提案します。
各委員	はい。
<b>【採決】</b>	承認
<b>2 報告事項</b>	
<b>1) 教育長報告</b>	
小島泰治教育長	<p>今日は、3点報告します。</p> <p>1点目は、大雨対応についてです。</p> <p>5月も下旬となりました。水俣も例年よりかなり早い、統計史上2番目に早い梅雨入りとなりました。梅雨入り早々、20日には、水俣で大雨となりました。各学校では、時間を切り上げての一斉下校、保護者へ引き渡しでの下校、部活動中止などの対応を取られています。</p> <p>湯出小は、校舎横の砂防ダムの水量がかなり危険な状況になったため、一時旧湯出中学校へ避難しておられます。</p> <p>20日の夜も警戒が必要ということで、心づもりはしておりましたが、無事に21日の朝を迎えることができホッとしたところです。校舎等の大きな被害もありませんでした。</p> <p>しかし、この時の対応において、保護者への引き渡しで少し混乱したり、避難所開設中の学校の在り方、いわゆる避難所が開設しているときに登校させるのか悩まれた保護者が多数いたり、いくつか課題が見られました。</p> <p>水俣市では、お配りしていますが、災害の時に水俣市で一斉の対応をとるのか、各学校判断とするのかのマニュアルを作成しており、これに沿って対応しております。今回見られた課題も含め、今後、学校とともに見直していきたいと思います。</p> <p>今朝も洪水警報が発表されましたが、昨日の時点で、マニュアルに沿って水俣市内一斉の対応はしないことを決めました。また、通常どおりであっても確実に保護者に対応を周知するよう指示したところです。避難所開設中の</p>

	<p>通常どおりの対応については、特に、丁寧に対応するよう指示しました。今朝は、約半分の学校が1時間から2時間の遅延登校の対応を取られています。特に大きな被害はあっておりません。</p> <p>2点目、各学校の行事の状況についてです。  まず、運動会、体育大会の状況ですが、16日(日)に水俣二中、22日(土)に袋中、23日(日)に水東小学校の運動会、体育大会が実施されています。どの学校もコロナ禍にあって、見学者の制限やプログラムの短縮等の対策を取られて実施されております。また、水俣二中と袋中は、前日までの大雨で、グラウンドコンディションが、かなり悪かったものの、当日は、晴れまして朝からグラウンドの整備等をされて実施されています。</p> <p>集団宿泊教室については、水俣二小が20、21日に、水俣一小が26、27日に実施予定でしたが、どちらも延期となりました。また、水俣二小が6月16、17日に修学旅行を予定しておりましたが延期となりました。</p> <p>3点目は、校長と教育委員の懇話会についてです。  委員の皆様には大変お世話になりました。感想ですが、各学校、校長先生の特徴がみられ、様々な工夫をされていることが分かりました。校長先生方には、良い取り組みについては、ぜひ校長会でも共有されるように助言したいと思っております。</p> <p>また、私は、質問だけではなくお願いもしましたので、その取組み状況も一年間見ていきたいと思っております。委員の皆様も、この懇話会の情報を学校訪問等で見る視点等にさせていただき、助言等をしていただければと思います。</p> <p>報告は以上です。</p>
<b>2) 各課報告</b>	
報告第1号	第37回定期演奏会に係る後援承認について
梅下 彰 生涯学習課長	(別添資料をもとに説明) 生涯学習課
小島泰治教育長	何か質問はございますか。
各委員	なし。
<b>3 議事</b>	
<b>1) 審議事項</b>	
議第1号	水俣市通学路等安全推進会議設置要綱の一部を改正する要綱の制定について
赤司 和弘 教育総務課長	(別添資料をもとに説明) 教育総務課
小島泰治教育長	何か質問はございますか。
各委員	なし。
<b>【採決】</b>	承認

議第 2 号	水俣市奨学生選考委員会委員の委嘱について
赤司 和弘 教育総務課長	(別添資料をもとに説明) 教育総務課
	非公開
【採決】	承認
議第 3 号	水俣市社会教育委員の委嘱について
梅下 彰 生涯学習課長	(別添資料をもとに説明) 生涯学習課
	非公開
【採決】	承認
議第 4 号	水俣市地域学校協働活動推進員の委嘱について
梅下 彰 生涯学習課長	(別添資料をもとに説明) 生涯学習課
	非公開
【採決】	承認
<b>2) 協議事項</b>	
協議第 1 号	令和 3 年 6 月の教育委員会定例会の開催日程について
赤司 和弘 教育総務課長	(別添資料をもとに説明)
各委員	了承
協議第 2 号	学校教育活動の現状について
福山達郎指導主事	(報告の概要) ① 4 月の小中学校長期欠席児童生徒報告について ② その他の報告について
	非公開
堀 浄信委員	いじめの報告書がすごく分かりやすく改善されていると思います。
山田 誠次委員	不登校関係については、前年度と比較して心配されるという意味ですか。
福山達郎指導主事	前年度の状況も考慮し、心配される件を学校側から上げてもらっていますが、まだ上がってきていない学校もあります。昨年度、不登校が多かった生徒については、心配して見ていかなければならないと思います。
本田恵津子委員	前年度まで報告されていた件は、もう改善されたということによろしいですか。
福山達郎指導主事	この報告は、10 日以上以上の欠席で上げてもらうようになっているため、今後、報告されてくる可能性はあります。
平尾 雅述委員	いじめについて、1 年生などは、小学校から中学校に進学し、一番意欲に

	燃えている時期ですが、他の小学校からの生徒などが交じり合うことでの人間関係により発生してしまうこともあるのかなど危惧しています。
小島泰治教育長	先日の教育懇話会でも話しましたが、特定の学校が相対的に件数が多くなることはあるようです。ただ、それはしっかりとアンテナを張って見ているということでもあります。
堀 浄信委員	高校におけるいじめの相談にも関わったことがあります。確か3か月間発生しなければ解消ということだったかと思います。今回の資料についても、少なくとも3か月間は、継続的に見ていけるようなものになればと思います。
小島泰治教育長	検討させていただきます。
<b>4 その他</b>	
1)	6月の行事予定について
赤司 和弘 教育総務課長	(別添資料をもとに説明) 教育総務課
平尾 雅述委員	県の出張など、リモートで行うものはありますか。
小島泰治教育長	会議という感じではありませんが、養護の先生などは、講話を見るとか、そういうものもあります。
平尾 雅述委員	環境センターのリモート関係は、水俣病資料館の設備を使用させてもらっています。大画面ですごく使いやすいですが、ただ、それでも来てもらうのがいいとは思いますが。肥後っ子教室などもありますし。
山田 誠次委員	中体連について、今年度、特別な対応になるとかそういう情報はありますか。
小島泰治教育長	そういう話は、全く入っていません。たぶん、決まれば山田会長から報告があるとは思いますが、まだ検討中かもしれません。昨年度は、こういう感じにしてよいかという相談がありました。
平尾 雅述委員	昨年度は、プールの中止も多かったが、今年はどうですか。
小島泰治教育長	中止ではなく対策を施してやるのかなど、通知文が来ているので、運動会や集団宿泊と同じように考えていくことになると思います。昨年、夏にプールを開放したのは久木野小学校だけでした。
堀 浄信委員	中学校の部活動は教育委員会の管理下にあると思うが、小学校は社会体育に移行したことで教育委員会はノータッチということになりますか。例えば大会の開催に関して、いろいろな指示を出すなど。
小島泰治教育長	そこはお願いのレベルになります。中学校の部活動は、例えば交流試合は行わないなどの指示ができますが、小学校の社会体育ではそれはできません。しかし、キッズスポーツクラブに加入している団体については、ある程度のお願いはできます。 ただ、教育委員会から離れスポーツ交流課になったので、その連携を考える必要があります。
堀 浄信委員	大会を主催する側からすると、市外から参加者が来る場合など心配があります。そのような場合、一般の市民からすると、教育委員会が対応すべきという認識があり、その辺はどうなっているのかという話を聞きます。 保護者や子供たちは試合をやりたいと思うし、その一方で、どこかで線を引く必要もあり、難しいところだとは思いますが。

小島泰治教育長	中学校での判断状況等の情報をもとに、主催者で判断してもらわないといけないと思います。
2)	教育委員会事務局の事務分掌について
赤司 和弘 教育総務課長	(別添資料をもとに説明) 教育総務課
	(質問無し)
3)	その他
堀 浄信委員	(不登校に関する資料について説明)
堀 浄信委員	<p>先日、私の所属する法人が運営している児童家庭支援センターで、不登校のお子さんを持つ保護者の会を行い、教育長、次長、課長、指導主事に来ていただきました。保護者さんの気持ちを教育委員会の方々にも聞いてもらい、参加者からも良かったと言われましたので、今後、学校の先生方にも声掛けをしたり、自立支援事業に保護者さんが参加してもらおうなど、やっていきたいと思っています。</p> <p>先日は、S S W (スクールソーシャルワーカー) にもお越しいただき、情報共有を行いました。</p> <p>まずは、不登校自体をどうとらえるのか、文部科学省からも、不登校は問題行動ではないと示されています。比較的若い先生方はそこが理解できていると感じますが、生徒指導等に一生懸命な先生方にとっては、なんで学校に来ないんだということになる場合もあります。</p> <p>それはお互いにとって不幸ですので、まずはS S W等から不登校に関する講演会を開催してほしいと思います。児童養護という立場から私が話をすることもできます。</p> <p>誰一人取り残さないというSDG sの言葉もありますので、まずはそこから始め、子供たちが幸せになれるようにと思っています。</p>
小島泰治教育長	<p>文部科学省からの資料にもありますが、不登校児童への支援の在り方についての基本的な考え方として、「学校に登校するという結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的にとらえて自立することを目指す必要があること。また、児童、生徒によっては、不登校の時期が、休養や自分を見つめなおす等の積極的な意味を持つことがある一方で、学業の遅れや進路選択上の不利益や社会的自立へのリスクが存在することに留意すること」とされています。教育委員会の役割も書いてあります。</p> <p>ただ、先ほどの文部科学省からの件など、県がもう少し指示をしてくと学校も変わるのかなと思います。不登校をゼロにした教員が偉いとか、そこまでの意識ではないとしても、不登校はなくしたほうが良いという風潮、文化は当然のように学校にはあると思います。</p> <p>私自身も、水俣市内の不登校数が30、40とあるよりゼロの方がいいとは思いますが、不登校が持つ積極的な意味も理解していかなければと感じています。県からも、それでいいんだという指導を学校側にしてもらえば、現場も理解できると思います。</p>
山田 誠次委員	<p>不登校に限らず、社会的マイノリティーの方々那不利益や差別を受けたりというのを解消していく流れはできてきていると思います。</p> <p>学校は学習、運動、社会性などの能力を効率的に伸ばしていく仕組みになっていて、日本の社会を築き上げてきた流れがあります。</p>

	<p>社会を維持していくため、効率的にやっていくことは大事なことで、大人になった時の社会性を身に付け、みんな社会の一員として生きていかなければなりません。</p> <p>しかし、これだけ社会が変わってくると、学校も少しずつ変わらなければいけないと思います。大多数の子供たちは学校で学べますが、登校できなくなった子たちに対して、どう手を差し伸べるかが問題です。</p> <p>成熟して住みやすく、みんなが幸せになろうという社会を目指すのはいいんですが、少ない立場の人たちを置き去りにするのではなく、救っていくのが本当の成熟した社会だと考えます。</p> <p>生活保護にしても、働けるじゃないかと厳しい目を向けることがあります。様々な事情で働きたくても働けないことがあると思うので、そこを見捨てるのではなく、一緒にこの社会で生きていこうと手を差し伸べる気持ちを一人一人が身に付けていくべきだと思います。</p> <p>そしてそれは、小さい頃からの学校教育の中で学ぶことかなと思うので、そういう意味で学校というのはすごく大事なところだと思います。不登校の件は、もう少し、県からの指導があってもいいのかなと感じます。</p> <p>保育園での話をすると、障がいを持ったお子さんを預かるときに、今の仕組みだと保育所が行政にお願いして補助金をいただいてお預かりする。障がいについては、親の責任でも何でもないので、育てる責任だけを親に背負わせるのではなく、みんなで支え育てていくということを本気で考える社会にならなければならないと思います。</p>
<p>平尾 雅述委員</p>	<p>私は学校に勤めていましたが、学業の遅れや進路選択などについて考えたときに、不登校になってしまったのが担任の責任みたいになってしまっているところもありました。</p> <p>ご家庭に話に行っても人間関係の難しさなどもありました。基本的には、子供とのつながりをどう持つかであり、不登校になった子に対し、誰が中心になって支援していくかです。学校からの連絡文など、たまに届け漏れが発生するとすごく怒られたりしたので、保護者さんの気持ちを汲み取ることも大事です。</p> <p>今の先生たちは、学校の中での仕事だけで精一杯だと思います。今まではとにかく学校に来てもらうための働きかけだったが、今の子供たちにはいろんな考え方があるので、入学式などで保護者に対してもしっかりと説明しておくことで心構えもできるようになると思います。</p> <p>子供や保護者が疎外感を持つことがないようにして、今の子供たちに対応したシステムづくりが大事で、そこには予算や地域の協力も必要です。</p> <p>先日は、精神疾患を抱える親の面倒を見るため、週に1回、学校を休んで家事を行う子供の事例を見ました。では、その子供の支援は誰がするのか、問題提起がなされていると思います。</p>
<p>本田恵津子委員</p>	<p>自分に当てはめて考えてみましたが、昔は1クラスあたりの子供の人数も多く、埋もれてしまえば先生からも気づかれず、それで1日が過ぎていました。その代わりに自己肯定感は低くなり、自立するための力が身についたかどうかは分かりません。</p> <p>学校訪問を行いながら感じることは、人数は少なくなったけど、先生が一人一人を尊重して授業しているということです。それが今の学校のいいところで、学校に行った方がいいなとは思っています。ただそれでも、本日の資料を読み、家庭環境や心の問題などでそれができない子供たちのことを改めて考えると、昔もいたかもしれないけど、今はそういうところまで尊重される、一人一人を尊重して拾い上げることができる時代が変わったのかなと思います。</p> <p>都会はフリースクールなど、多様性のある選択肢もあるが、人口が少ない場所には自然があり、また高齢者も多く、学校以外にも自立していくための</p>

	<p>力を身に着ける場所があるのかなと思います。</p> <p>学校に行くのが一番いいとは思いますが、そうではない子たちまで目を向けていく色々な仕組みができていけばいいなと思う。</p> <p>多くの人たちが介入していけばいいし、総合体育館なら、学校にいけない人たちが運動でストレスを発散するとか、お手伝いができると思います。</p>
小島泰治教育長	<p>結論は出ないと思いますが、平尾委員の話にもあったように、教員の立場としては何とか学校に登校させなければならないというところに力を注いできました。</p> <p>しかし今後は、不登校の中でどうやって社会的自立を図っていくかに力を注ぐべきで、県に対しても、働きかけをしていきたいと思います。</p>
堀 浄信委員	<p>補足ですが、決して学校に行く必要がないというわけではありません。学校の先生は本当に一生懸命頑張っていると思います。先生方が家庭訪問した時に、「何とか学校に戻さなければならない」という思いで接するのか、もしくは本当の意味での自立のために「今は学校に行かないという選択肢もあるよ」という思いを持って接するのかで全然違うと思います。</p> <p>その辺の概念、理念に基づき、子供たちに関われるか、そして生きてさえいければいいよということを前提に取り組んでいかないとこの社会的な問題は収まらないと思います。引きこもりの件数が増えてきていたところに、コロナで余計に増えました。自殺の件数も増えています。内訳をみると子供の数が増加しており、女性の数も増えています。男性は増えていませんが。</p> <p>学校懇話会でいまだに不登校ゼロという目標を掲げ表記している学校もありました。</p> <p>お互いに意識を共有し、どの方向にみんなが行くのか、そこを子供は見ているので、学校の先生も交え、みんなで目標を定めましょうという場を早急に作っていただきたいです。</p>